

令和二年度

岡山中学校 「A方式」 問題Ⅱ

【注意】

- この試験は、文章や資料を読んで、太字で書かれた課題に対して、答えやあなたの考えなどを書く試験です。課題ごとに、それぞれ指定された場所に書きましょう。
- 試験用紙は、表紙(この用紙)をのぞいて五枚あります。指示があるまで、中の試験用紙を見てはいけません。
- 「始め」の合図があつてから、試験用紙の枚数を確かめ、五枚とも指定された場所に受験番号を記入しましょう。
- 試験用紙の枚数が足りなかったり、やぶれていたり、印刷のわるいところがあつたりした場合は、手をあげて先生に知らせましょう。
- 試験用紙の  ※ には、何も書いてはいけません。
- この試験の時間は、四十五分間です。

課題1 次の文章を読んで、あとの(1)から(4)に答えましょう。

国民みんなが経済的に「まあまあ」だった頃は、誰もが「快適な今の状態が変わらないでほしい」「平和が続いてほしい」「戦争はいやだ」という気持ちがあるに染みついてきた。ふんわりとだが「全員的一致した意見」があった。今は長い景気停滞で、豊かな人がいる一方で、X。「現状のままでは希望が持てない」という人が増えているのだ。社会をどう改善していったらいいかを冷静に考えようとする人がいる一方で、感情的にストレスをためている人も増加してきている。

そこにつけてこんでポピュリズム(大衆迎合主義)が頭をもたげて来ている。特にアメリカやヨーロッパなどでは目に見えて変化してきている。人々の不満をすくい上げて、今ある政治を批判する。ポピュリストの政治家は、その時その時で人々の耳に心地よい発言、情報を流し、支持を得る。大衆の気分次第で政策が変わるので、一貫性がなく、過去の発言とつじつまが合わなくても気にしない。

アメリカではグローバル化で職を失った人々の怒り、ヨーロッパでは中東などから移民が大量に流入したことへの不満がその根っこにある。

「ポスト真実」が受け入れられた背景にもそういう鬱屈した気分があるのだ。
日本でも所得格差が広がる中でストレスはたまっている。そういうときに外国の脅威を強調されたら「日本、負けてなるか」という危ないナショナリズムも頭をもたげてくることもある。

そうした気分は、ぼくらの中にすでにあるのに無意識で気づかないでいる場合が多い。だから、ちょっと煽られると簡単になびいてしまう。自分たちの気分が気づくことが冷静に考える事への第一歩だ。その気分、空気をぼくらは「世論」と呼んだりする。「世論」と聞くと、何が思い浮かぶだろうか? 「世論調査」のイメージが強いよね。ぼくらみんなの意見、考え、気持ち、気分など……。でも、もともとはもっと深い意味もあったんだ。

「世論」には「よろん」と「せろん」のふた通りの読み方がある。かつては「よろん」は「輿論」と書いており、明確な違いがあった。「世論」が世間一般の感情なら、「輿論」は正確な事実をもとに議論を重ねて出来上がった「社会的合意」だ。それが漢字表記の問題で、一つの言葉になり、区別されにくくなってしまった。

メディア史研究の第一人者、京都大学の佐藤卓己教授は、今は、気分しか測っていない世論調査にばかり目がいって、情緒的な意見が正当な意見かのように重視されると指摘。常に、それが「輿論」なのか「世論」なのかを見分けることを勧めている(朝日新聞2010年8月14日)。

感情的に反応しているだけでは何も解決しない。下手をすると「世論」は制御できない怪物のようになってしまいかもしれない。そうならないためには、表面的な情報に惑わされずに冷静に読み解く力をつけることが必要だ。ぼくら一人ひとりの反応が「世論」になるのだし、世論は情報によって操作されやすい。その世論が、社会を動かす。パワーも持ってしまったのだから。

最後に、世論に関連してもう一言。ぼくら市民が、ソーシャルメディアの普及で発信力を持つようになって、ジャーナリズムは大きな転換点に立たされていることに触れておこう。

これまでは、わずかなプロのジャーナリストの手に握られていた発信力をぼくらみんなが持つようになったのだ。だから「問題あり」の報道があれば、「これは問題だ」「わたしはこの情報はまちがっていると思う」といった異議申し立てや修正のコメントがツイッターなどを通じて発信され、あつという間に世間の知るところとなるはずだ。

これは大変いいことだ。情報のプロの目をぼくらの視点、目線に近づかせ、ジャーナリズムをもっと信頼あるものにするのはぼくらの肩にかかっているといえる。

一方で、ニュースを作り、情報を発信する時には、ぼくらの責任を負うことになる。単に憤りを吐き出そうとしているだけでないか、胸に手を当ててみよう。そして「これはみんなに(社会に)知らせるべき価値のある情報だ」と判断したら、どこから得た情報かニュースソース(情報源)を示しつつ発信する。ニュースソースに対して事前に了解をとるマナーも大事だ。

ぼくらが気分や感情のみでリアクションせず、互いに考え深く「輿論」を形成していかうとするなら、情報は人と人をつなぎ、自分の考えを作り上げる重要な栄養源になる。

ぼくらみんなが正しい情報を共有することを目指すプロセスそのものが、不満や怒りの蓄積しない社会につながっていくはずだ。発信する側と受け取る側が互いにオープンにやりとりし協力する時代が、新しいツールの誕生とともにやってきている。

(三浦準司『人間はだまされるフチャクニュースを見分けるには』から)

- *1 ポピュリズム…ここでは、大衆の不満や不安をあおることによって、支持を得ようとする政治的手法。
- *2 ポスト真実…客観的事実より、感情的な訴えかけの方が世論形成に大きく影響する状況。
- *3 鬱屈…不満や心配事がたまって気分が晴れずふさぎむむこと。 *4 ナショナリズム…国家主義。
- *5 ソーシャルメディア…インターネットを通じて不特定多数の利用者が情報をやりとりしたり、アイデアを共有したりする仕組み。
- *6 ジャーナリズム…時事的な情報や意見を新聞やテレビなどを通じて大衆に伝達する活動。
- *7 リアクション…反応。 *8 プロセス…過程。 *9 ツール…道具。ここでは情報伝達の仕組み。

(4枚め)

受験 番号	
----------	--

(1)※

(2)※

(3)※

3※

課題3 ^{あきこ}明子さんは、兄の通う高校にイギリスからの留学生がいることを聞いたことから、^{いちろう}一朗さんを交えて先生と話しました。あとの会話文を読んで、(1)～(3)に答えましょう。

明子：兄の通っている高校にイギリスから留学生がやって来たそうです。日本には、どのくらいの数の留学生がやって来るのですか。

先生：資料1をみてごらん。日本への外国人留学生の数を示したグラフだよ。資料2は留学生の出身国・地域を示した表だよ。

一朗：日本へ来る留学生は、この10年間に約 **A** 倍に増えていますね。

明子：出身国をみると、最も多い **B** をはじめ、ベトナムやネパール、^{かんこく}韓国などのアジアからの留学生が多いですね。

(1) 一朗さんの会話文の **A** にあてはまる数字と、明子さんの会話文の **B** に入る国名を考えて書きましょう。

A	
B	

先生：資料3は、留学生がどこの都道府県に住んでいるかを示したグラフだよ。どんなことが読み取れますか。

一朗：東京や大阪、^{おおさか}福岡などの大都市に住んでいる留学生が多いことが分かります。

先生：その理由は何だと思えますか。

明子：多くの留学生が大都市に住んでいる理由は、おそらく **C** だと思えます。

(2) 明子さんの会話文の **C** に入る理由を考えて書きましょう。

C	
---	--

明子：日本からはどのくらいの方が留学生として海外に行っているのですか。

先生：2人で調べてみてごらん。そしてどの国に留学している人が多いのかも調べてみてごらん。ところで2人は将来、留学したいと考えていますか。

一朗：まだ、ぼくはよくわかりません。

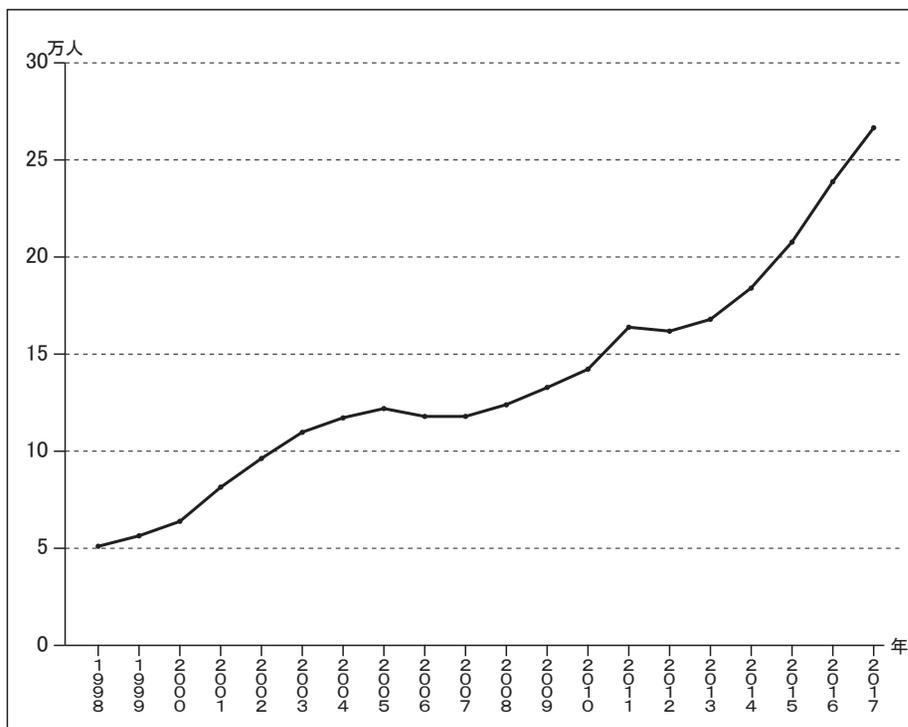
明子：私は、ぜひ留学したいと考えています。

(3) 10年後にあなたが1年間海外に留学するとしたら、どの国に留学してどのようなことを学びたいですか。留学したい国と学びたいこと、その理由を考えて書きましょう。

国 ()

受験 番号	
----------	--

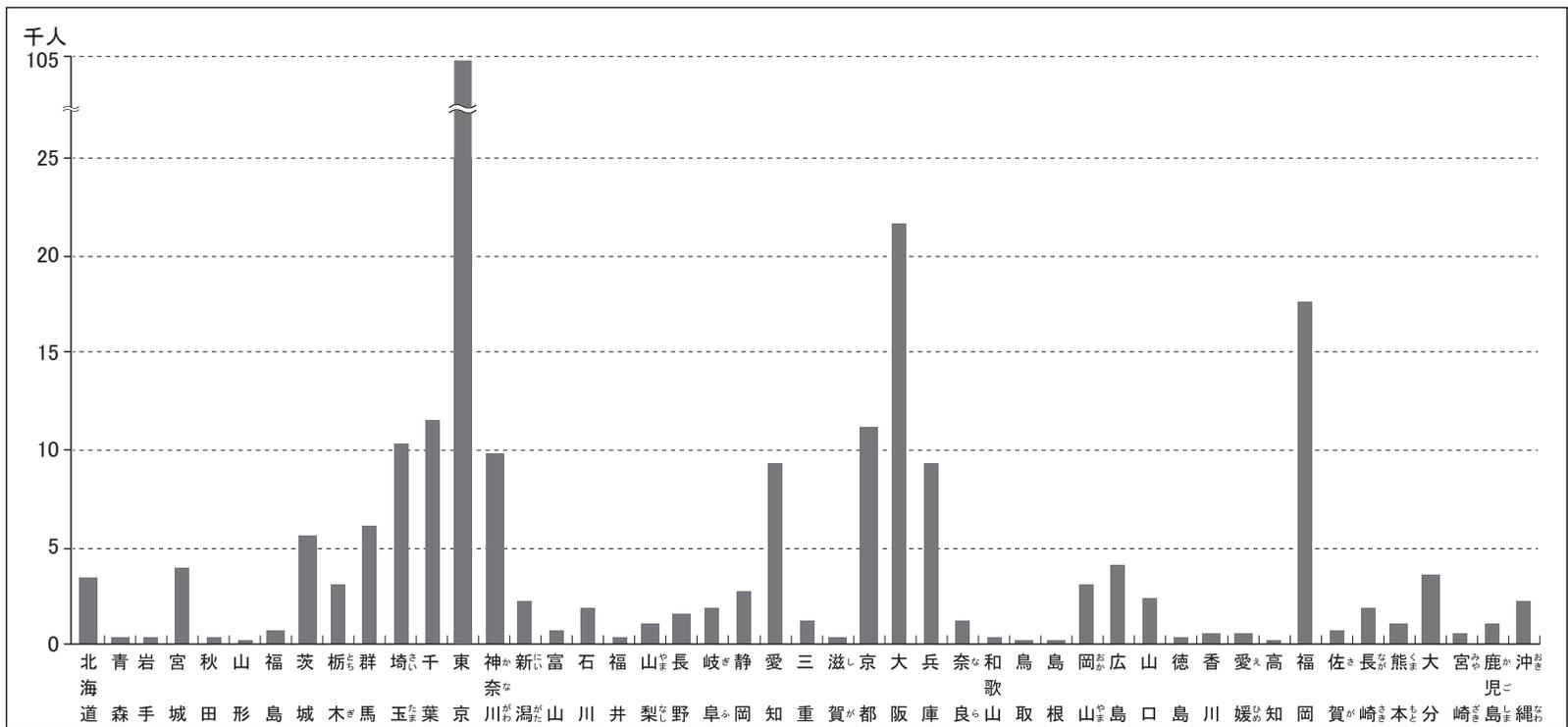
資料1 外国人留学生数の変化



資料2 多くの外国人留学生が来ている国・地域と留学生数 (2017年)

国・地域	留学生数 (人)
B	107,260
ベトナム	61,671
ネパール	21,500
韓国	15,740
台湾	8,947
スリランカ	6,607
インドネシア	5,495
ミャンマー	4,816
タイ	3,985

資料3 都道府県別の外国人留学生数 (2017年)



(資料1,2,3は(独)日本学生支援機構による調査から作成)